■妖鬼孕ませ輪姦２　ムサシが鬼ハメに堕とされる話

――ムサシがヤエ・ユイの代わりに人質となり、“救助”されるまでの数日間の出来事である――

鬼たちの『苗床』となるため、『聖水』……鬼の精液風呂へと連れて行かれるムサシ。
そこでは鬼たちの繁殖行為によって殖えた次世代の子鬼たちが待っていた。
その際、子鬼たちによってムサシは戦闘形態を解くように指示される。

「……この姿の方が、貴様ら好みだと思うが……？」
【そっちは後の愉しみにとっておきたいんだよね～♪】
【ほら、苗床になるんでしょ？　つべこべ言わずにセーラー服とやらになってよ♪】

鬼と契約こそしたが、隙あらば出し抜いてやろうと考えていたムサシ。
ゆえに戦闘形態を解かずに済むよう渋るが……妖鬼たちも念入りに抵抗力の少ない形態で犯したいらしく、
大勢で妖気を操り強引に戦闘形態を解こうとしてくる。

「ぐ……っ」
(数の利があるとはいえ、なんという妖気と霊気だ……ヤエとユイが敗北するだけはある……！)
【え～、苗床のクセに言うこと聞かないの？】
【鬼さんたちに言って、外でアヘってくたばってるヤエちゃんたち殺させるよ？】
「……」

ムサシが諦念の溜息を吐くと共に妖気を解除。
巻き起こる圧力で一つ縛りにした赤髪が揺らされると、髪と同じく紅の装具……ビキニ水着に酷似した形状の衣装が消え、元のセーラー服姿に戻る。
ムサシはこの状態でも相当の戦闘力を誇り、更にヤエとユイが回復すれば助けに来る。
とはいえ、やはり戦闘形態か否かでは陵辱により受けるダメージに差が出るのは明白。
内心で緊張が奔るのを見透かしたか、子鬼たちは若く小さい……言葉を選ぶなら可愛いしさすら残る容姿で、下卑た笑みを浮かべる。

【これがセーラー服かぁ。いいね～♪】
【じゃ、そのカッコで『聖水』に入ろっか♪】

子鬼に引っ張られ、精液風呂へと連れて行かれる。
凄まじい獣臭と異常な妖気。それらが発情を強いる鬼の精液が、窪みの中に溜められている。
まさに精液風呂と表現するに相応しい……『聖水』などとはとても呼べないものが待っていた。

「……これに浸かるのか？」

一時は人を捨てて妖魔となり、あらゆる修練を経験したムサシだが、これには反射的に身がすくんでしまう。
しかし覚悟を決める暇もなく、子鬼の少年たちによって背中を突き飛ばされる。

【ほら、一気にドーン！】
「おい！　待て……っっ！」
　バシャァッ！
「ぉっっ♥♥　くおぉぉおぉっ♥♥」
（なっ何だこれはっ♥♥　触れただけで、体中が熱くっ♥♥　こ、これが……こいつらの……♥♥）

　近付くだけでも発情必至の妖鬼精液。それも濃厚に圧縮されたものの中に跳び込まされ、
　ムサシは全身を覆う大量の精液媚薬によってたちまち全身を『牝』へと変えられる。
　妖魔と化したことのあるムサシだが、今は戦闘形態ではない。
　更にヤエ・ユイと違い性感への耐性もなく、一瞬にして絶頂寸前に追い詰められてしまう。
　不意に突き飛ばされたこともあって精神的な準備が出来ていなかったムサシは、契約をしたにも関わらずすぐさま精液風呂から出ようとする。
　悶絶しながらも湯を掻き分ける女剣士。
　だがその足掻きを嘲笑うように、数匹の子鬼少年たちが脱出を阻み、精液湯と共に愛撫を浴びせてくる。

　バシャッ♥　バチャァァッ♥♥
「おっぐ♥♥　ふっぅううぅぅぅっ♥♥」
（不味い♥♥　出なければ♥♥　もう――――♥♥）
【ムサシさん、お湯加減どう？　気持ち良い？】
【ボクらが『淫ら経穴』ってマッサージで、もっと気持ち良くしたげるねー♪】
（淫ら経穴だとっ♥♥　こんな状態で♥♥　そんなものを喰らえば――♥♥）
「やめろ♥♥　寄るな♥♥　私に触れるなぁっ♥♥」
　がしぃっ♥♥　もみもみもみもみっ♥♥　ぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぅぅぅぅ♥♥
「んんぉぉっ♥♥♥　ほぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉ♥♥♥」

　顔ほどもある爆乳、勃起した乳首、女性らしい丸みと弾力を帯びた爆尻、陰核に陰唇……
　戦士らしからぬ美体が衣装越しに揉みくちゃにされ、せめて戦士の矜持を見せようとしたムサシであったが呆気なく達してしまう。
　そしてそれは同時に、妖気と精気によって鬼の子を孕める身体にされたということも意味していた。

「や♥♥♥　やめ♥♥♥　おぉぉぉぉ……♥♥♥」
（鬼の精……♥♥♥　淫ら経穴♥♥♥　こ♥♥♥　これほどとは……♥♥♥）

　最近の大量繁殖、ヤエとユイの敗北……それらも納得するしかない、圧倒的な快楽と精力。
　戦士として、女としての悔しさと恐怖を感じるのに、それも忘れそうなほどの多幸感が絶頂を経てなおムサシの肉体を蝕み続ける。

【あらら、もうイッちゃった？　見た目通りえっちなんだね♪】
【でも、お愉しみはこれからだよ～♪】

　ひとしきり揉み終えると精液風呂から引き摺り出され、別の部屋に連れて行かれる。

そこは精液の風呂がないにも関わらず精液や牝の愛液の匂いが立ち込めており、
性交……陵辱と種漬けのための部屋だというのが直感的に理解できた。

【さて、早速だけどハメ倒しちゃおっか♪】
【マッサージだけで半アへしてるムサシさんにはキツいだろうけど、ボクら全員で種漬けさせてもらうから覚悟してね♪】
「っ……♥♥　す、好きにしろ♥♥　ヤエとユイが戻ってくれば、貴様らはまとめて葬られるのだからな♥♥
せいぜいその時まで……」
【あーハイハイ、そういえばそうだったね♪】
【じゃー残り少ない余生で子供残せるようがんばるぞー♪】

パンツの股間部がズラされ、いよいよ陵辱……性行為の本番が始まろうとする。
絶頂させて調子に乗る子鬼少年たちに対しムサシも鋭い目つきと言葉で脅してみるが、
少年たちは意味がわかっていないのか、それともヤエたちの反撃など無意味と考えているのか、軽薄で余裕な態度を崩さない。
若さに反した巨大で精力に満ち満ちた肉根を見せると、強気な仁王立ちのムサシに後ろから近付き、秘部に狙いを定め……

【時間ないから、この絶倫ちんぽ喰らってソッコーでアへってね♪　じゃいくよ、せーの……】
「……っ♥♥」
（ぜ、絶倫ちんぽっ……♥♥　こいつら全員、子鬼のクセになんという大きさだ♥♥
宛がわれただけで♥♥　精力が♥♥　沁みてくる……っっ♥♥
だ、だが♥♥　私は負けん♥♥　あの二人の仇♥♥　そして私の剣士としての誇りのために♥♥
こんな子鬼如きの♥♥　悍ましい精力などに♥♥　屈するわけにはいかんっ♥♥
私は♥♥　子鬼の絶倫ちんぽなどに……♥♥）
――負けたりしな
ずぼぉっ♥♥
「んをををぉおぉおぉおぉおぉおぉおぉおぉおぉおぉ♥♥♥」

絶倫巨根による、勢いのついた挿入。
ムサシはその一撃で以って、固めた決意も気迫も、誇りさえも失う無様な絶頂を晒してしまう。
快楽への抗いは一瞬も保たず即座にアクメし、結合部は快楽の証である牝潮を派手に噴き出す。
完全に蕩けた表情は少年たちの言う『アへ顔』以外の何物でもなく、
不屈の誓いとは真逆の完全敗北であった。

「お♥♥♥　おぉぉほぉぉ……♥♥♥」
【え、ホントに即堕ちしちゃったの？　ムサシさんのオマンコ弱過ぎでしょ♪】
「だ♥♥♥　黙れ♥♥♥　この程度で♥♥　誰が堕ちたりなど……」
ずぼっ♥　ぱんっ♥　ぱんぱんぱんぱんぱんぱんっ♥♥
「お♥♥♥　堕ちっ♥♥♥　んんぉおっほぉぉぉおぉおぉおぉおぉ♥♥♥」
（絶倫ちんぽっ♥♥♥　つ……強過ぎる……っっ♥♥♥）

嘲笑われて何とか言い返すが、肉突きを受けて再び即絶頂。
下手に堪えようとしたために、顔と声と痙攣具合は余計に無様さが強調されたものになってしまう。
人外の精神力と肉体でも抗えない、子鬼の精力。
それをひしひしと痛感する間も、ムサシの肉体は興奮で子鬼少年を締め付ける。
そして子鬼少年も肉幹を昂ぶらせ、早くも欲望を爆ぜさせようとしていた。

【後つかえてるし、もう一発目の中出しイクよ！　種漬けでいっぱい孕んでアへってねムサシさんっ！】
「なっ♥♥　中っ……♥♥　す、好きにしろと言っただろうっ、私は貴様らの種漬けなどでアへったりなどっましてや孕んだりなどせんっ先程のも堕ちてなどいないっ私のおまんこは貴様らの絶倫おちんぽ中出しなどに決して屈したりなどっ」
　ずっぼぉっ♥♥　ずごりゅんっ♥♥
「お♥♥♥　屈し♥♥♥」

◆

◆

子鬼少年たちが妖気でムサシの身体を包む。するとムサシの肉体に異変が起こり……
なんと、ムサシの目の前にもう一人のムサシ……戦闘形態となったビキニ姿のムサシが現れた。

「これはまさか……」
『強制分身……？』

セーラー服姿であるムサシ本体の驚愕に、ビキニ姿の分身が答える。

【そーゆーこと♪　ムサシさんセーラー服も戦闘形態もえっちぃから、両方犯すことにしたんだ♪】
　がしっ♥♥　ぎゅむぅっ♥♥
「んおっ♥♥」
『や♥♥　やめ……っぉ♥♥』

説明しながら少年がビキニ姿ムサシの胸を鷲掴み。すると分身はもちろん、本体の胸にも愛撫の刺激が奔り、二人が同時に悶絶した。
どうやら分身は意識、そして感覚も本体と繋がっているようだ。
ただし分身の方は妖術により催眠がかけられているのか、衣装の他に意識等にも若干の変化が見られるが。

【どう、感じた？　分身が受ける快楽は全部本体にも送られるから、これで二倍気持ち良くなれるね♪】
【ちなみに分身の方は、妖術の催眠で『ムサシさんの本性』が出るようにしてるから】
【じゃ、早速乱交種漬けイクよー♪】

「本心……だと？」

分身の情報を聞き、ムサシはギクリとしてしまう。

（送られてきた、分身の感覚……あれは、嬲られることを受け入れていた……
更なる責めを、明らかに欲していた……
まさか、それが私の本心……本性だとでも言うのか……？）

今の状態でさえ屈辱的なのに、ムサシは内心で更に肉欲を求めているというのか。
恐ろしい事実に、今まで以上に屈辱感と憎悪が湧き立つ。

（あ、有り得ん！　あれは奴らが催眠によって作り出した、都合のいい人格だ！
本心では、このような辱めなどっ！！）

考えている内にも二人揃って背面立位で犯されそうになる。
必死に思考する本体のセーラー服ムサシに対し、ビキニ姿ムサシはどこか期待するような表情で、少しだけ腰を少年に突き出し……

【よし、二人揃ってブチ込むよ……せぇのっ！】
ずっぼぉっ♥♥
「んおっ♥♥♥　おぉおぉおぉおぉ♥♥♥」
『おっほぉぉぉ～～～～♥♥♥　ちんぽっ♥♥♥　鬼ちんぽぉおぉおぉおぉ♥♥♥』

やはり挿入快楽に耐えられず、二人揃って絶頂。
しかしその際に快楽のあまり飛び出す言葉は、セーラー服とビキニでは大きく異なっていた。

体験版はここまでです。続きは製品版で！